

The International Journal of Dental Technology, EXTRA ISSUE

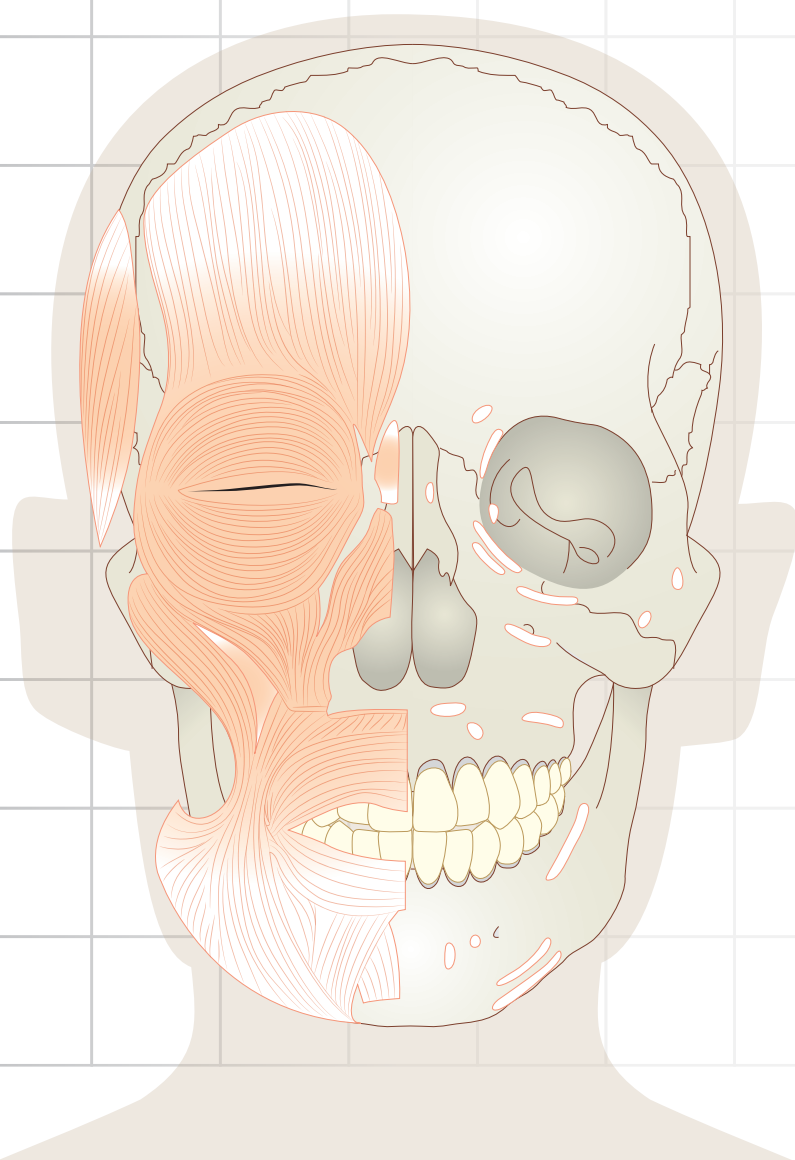
歯科技工 別冊

機能的な補綴装置製作のための

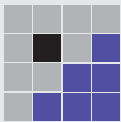
# アトラス口腔顎顔面解剖

*Atlas of Oral Maxillofacial Region Anatomy*

北村清一郎 編著



医歯薬出版株式会社



## 4. 口蓋床部

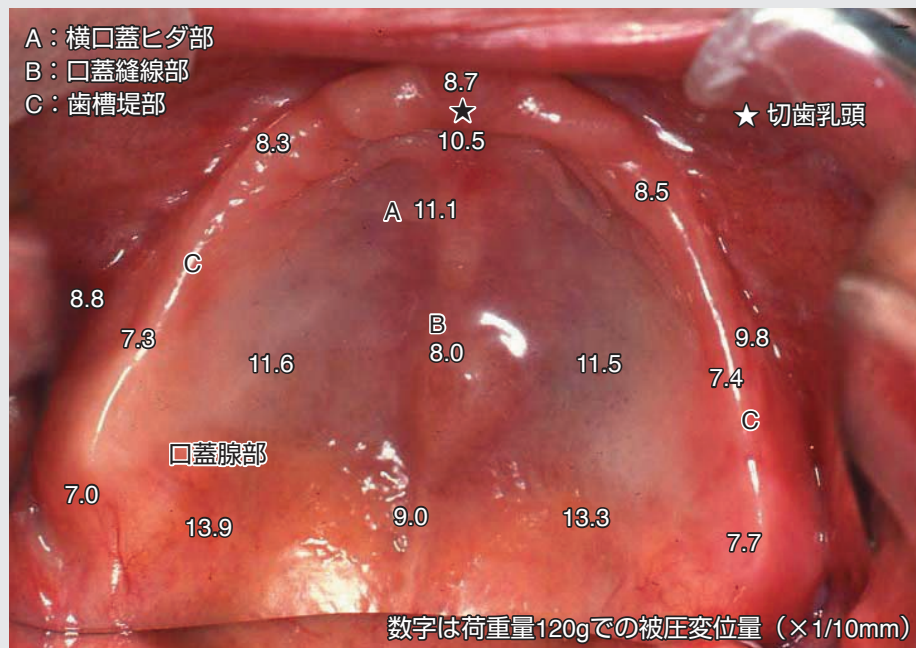


図 3-4-1 無歯顎の口蓋粘膜と被圧変位量の部位差<sup>4)</sup>

咀嚼粘膜で覆われた硬口蓋は義歯床面積を増大させ、義歯の吸着性の向上に大きく寄与する。しかし、一定の荷重を加えた場合の粘膜変位の度合い、すなわち被圧変位量は部位によって異なり、歯槽堤部や口蓋縫線部では小さいが、横口蓋ヒダ部や、口蓋縫線部と歯槽堤の間の領域（口蓋腺部）では大きい

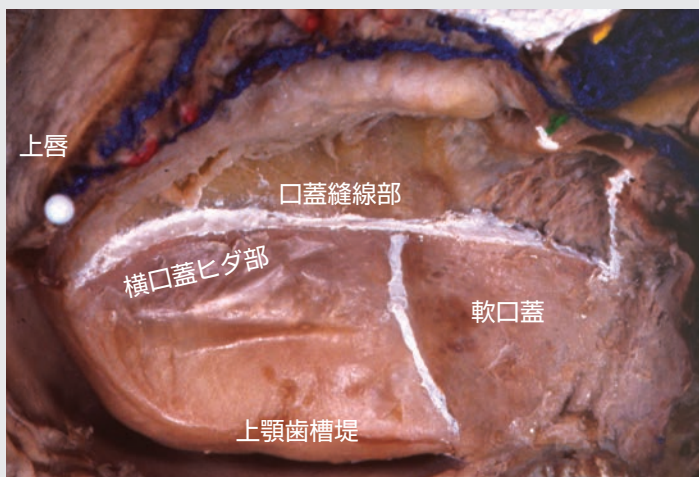


図 3-4-2 口蓋粘膜の厚みの部位差を正中での粘膜断面で示す

被圧変位量だけでなく、口蓋粘膜の厚みも部位によって異なる。本図では一側の口蓋粘膜を除去して、他側の口蓋粘膜の断面を正中で見ている。口蓋縫線部では粘膜が薄く、それより前方の横口蓋ヒダ部と後方の軟口蓋では粘膜は厚い



図 3-4-3 同部に上顎義歯を装着したところ

義歯に圧が加わると、粘膜の薄い部分では痛みが出やすく、被圧変位量の大きな部分では義歯に滑りが生じて痛みの原因となる。また、痛みを感じる部分では顎堤の吸収も生じやすい。すなわち、痛みも顎堤吸収も生じさせない床負担量は粘膜の部位によって異なり、義歯機能時にすべての部位で適切な負担となるような配慮が求められる

図 3-4-4, 5 選択的加圧印象

義歯機能時にすべての部で適切な負担が得られるべく行われるのが選択的加圧印象である。最終義歯で加圧された際の粘膜圧縮状況を印象採得時に再現するのが加圧印象であるが、選択的加圧印象では、トレー内面と粘膜との距離を部位によって変えることで加圧量が調節されている<sup>3)</sup>

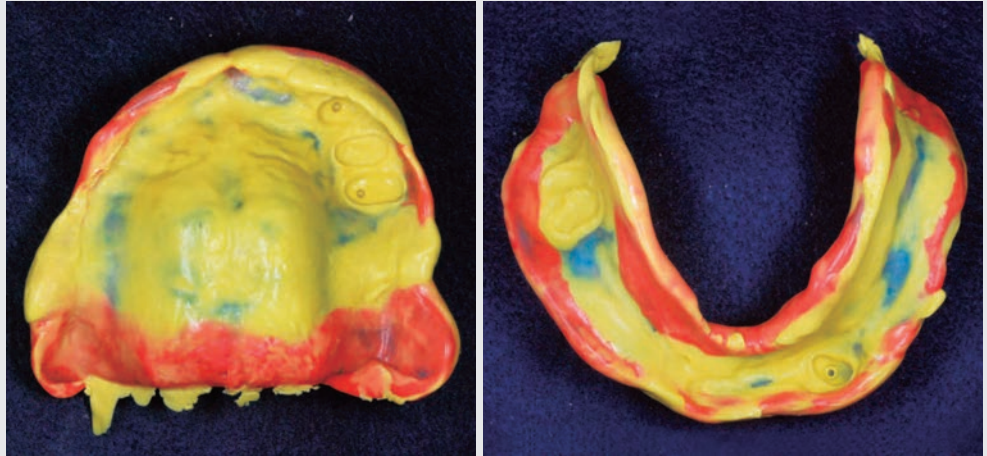
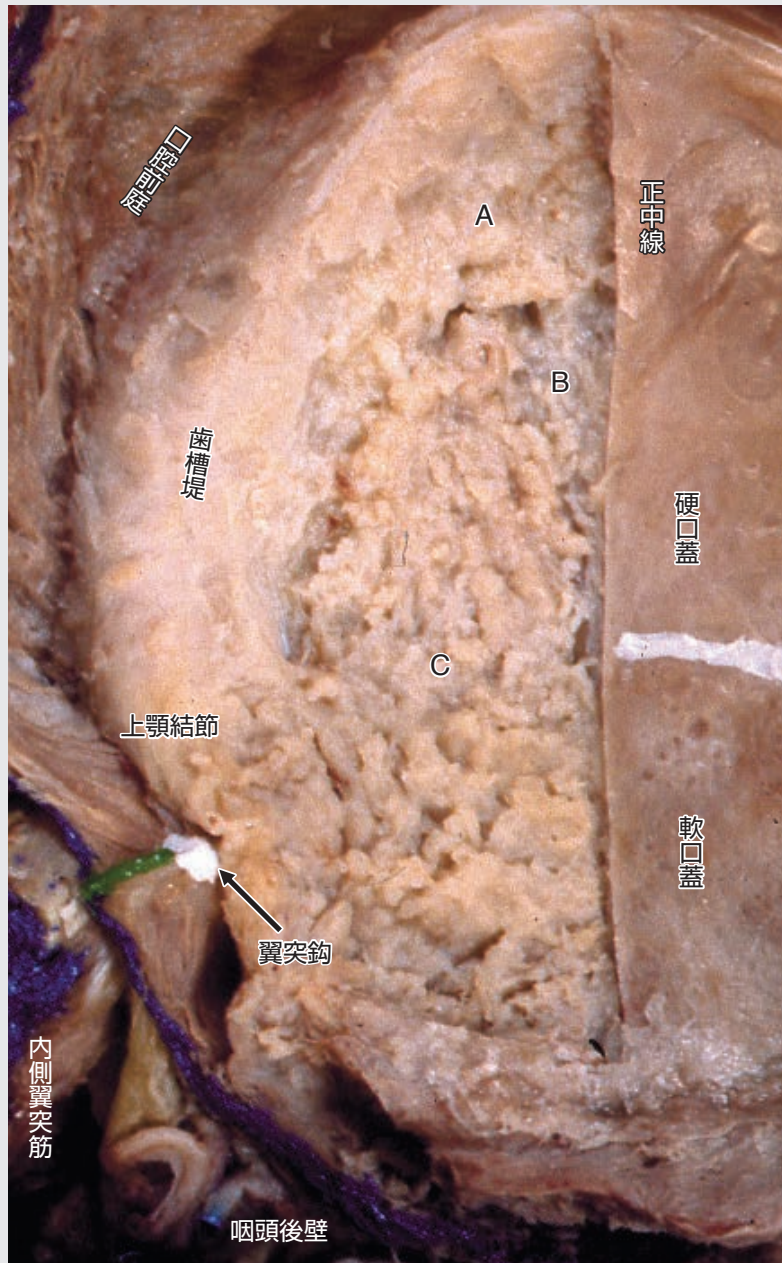


図 3-4-6 硬口蓋粘膜の粘膜下構造による区分<sup>3)</sup>

4部に区分される。咬合圧負担域の歯槽堤部では粘膜下組織は密で、粘膜は骨膜に固着する。横口蓋ヒダ部(A)は粘膜下組織に脂肪組織を含む。口蓋縫線部(B)では粘膜は菲薄で粘膜下組織が欠如している。口蓋腺部(C)では粘膜下組織に口蓋腺を含み、粘膜は厚くなる。硬口蓋粘膜の被圧変位量の部位差はこれらの粘膜下組織の相違を反映している





## 8. まとめ

表 4-8-1 下顎印象に関係する解剖構造 (ランドマーク)<sup>1)</sup>

唇側フレンジ	口輪筋, 口輪筋の下顎起始, オトガイ筋
頬側フレンジ	頬筋, 咬筋, 外斜線
レトロモラーパッド	臼歯腺, 翼突下顎ヒダ, 頬筋, 上咽頭収縮筋, 側頭筋腱
唇側ノッチ	下唇小帯
頬側ノッチ	下頬小帯, 口輪筋, 頬筋
舌側フレンジ	下顎隆起, 舌下腺, 顎舌骨筋線, 舌筋, 顎舌骨筋, オトガイ舌骨筋, 上咽頭収縮筋
舌側ノッチ	舌小帯, オトガイ棘

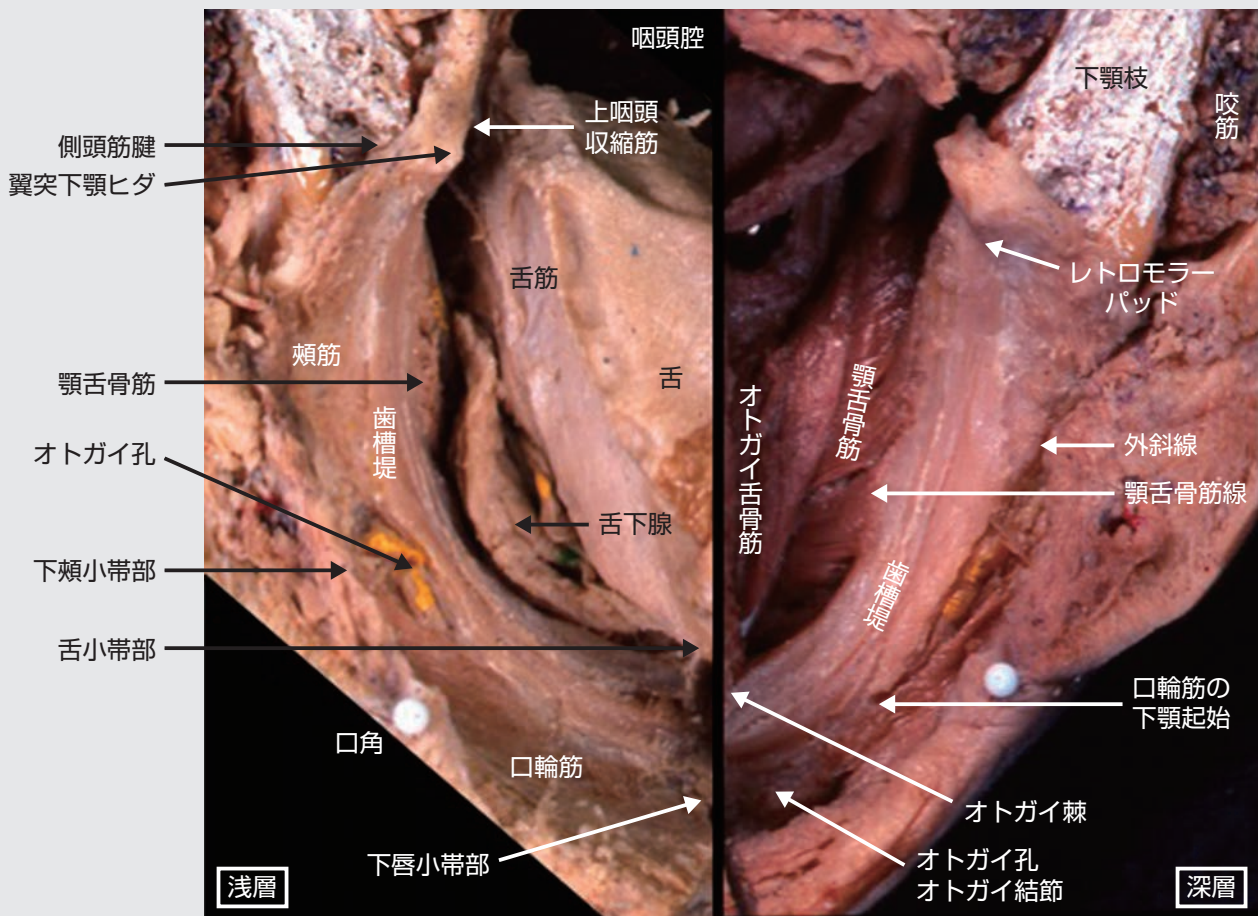


図 4-8-1 下顎歯槽堤の周辺構造

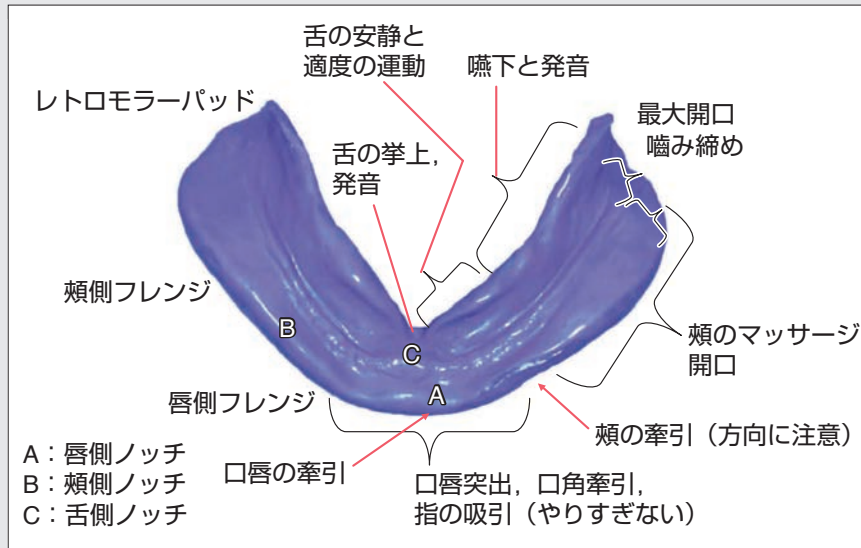


図 4-8-2 下顎総義歯の床縁形成に有効な口腔の運動<sup>1)</sup>

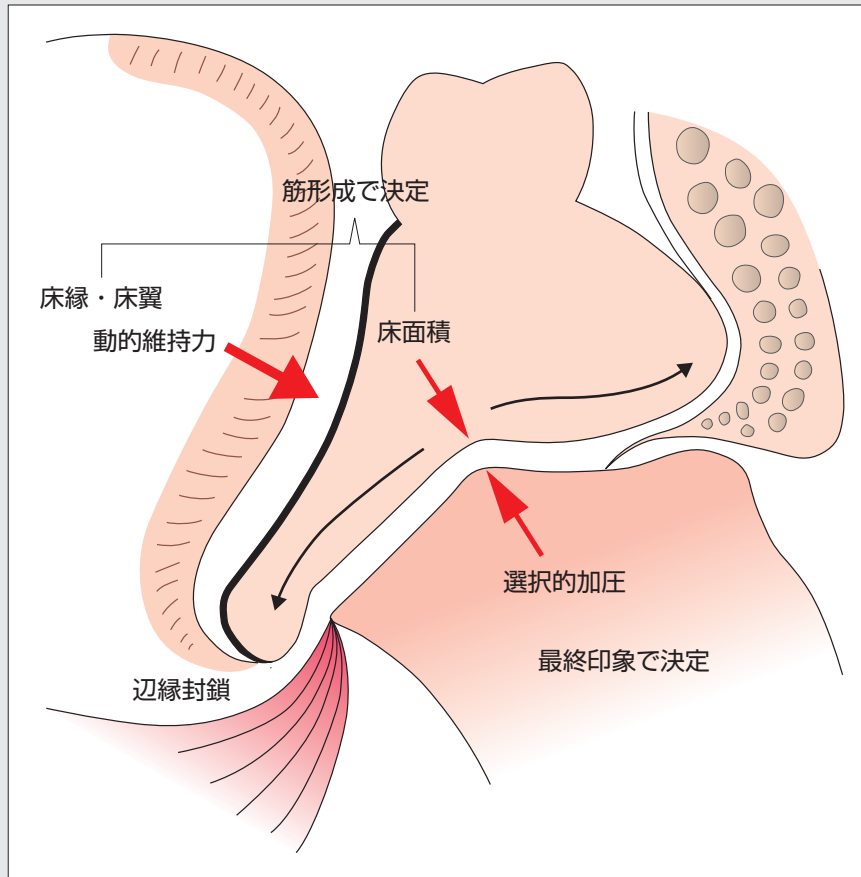


図 4-8-3 総義歯の維持や支持に関与する 4 つの力学的事項<sup>3)</sup>

総義歯の維持や支持に関与する力学的事項として、① 義歯の床面積、② 選択的加圧、③ 辺縁封鎖、④ 動的維持力が挙げられる。印象採得時の選択的加圧は、被圧変位量の異なる各粘膜面に疼痛も生じさせず、顎堤も吸収させないようにして、最大の負担を与えることを目的としている。義歯の床縁部の辺縁封鎖は周囲構造によって獲得される。動的維持力は、床翼部に適切な形態を付与して、周囲構造で義歯を押さえつけることで維持させようとする力である。粘膜面における床面積と選択的加圧は義歯の支持と維持に、床縁部の辺縁封鎖は維持に、床翼部の形態は動的な維持力に関係する。床縁部の位置および形態と床面積の的確な決定はいわゆる筋形成といわれる作業でなされ、適切な選択的加圧は最終印象で決定される(本図は、徳島大学 市川哲雄先生のご厚意による)